

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスゆにこ青地		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 20日		～ 2025年 2月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 40
○従業者評価実施期間	2025年 2月 14日		～ 2025年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族への情報共有 関係機関との連携	家族については、基本的な、送迎時の引継ぎや連絡帳だけでなく、気づいたことや共有すべき内容については、都度電話やメールにより連絡を行っている。 関係機関については、本人に必要なタイミングで、会議、共有、連絡をこまめに行っている。	現在できる限りの対応を行っているため、量ではなく、その質の向上に向け、学習を深めるなど取り組んでいきたい。
2	様々な支援経験等を持つスタッフ ひとつに絞らない日々の活動内容	これまで、成人期の支援経験などを持つ支援者が多く働いていることで、本人の見立てや保護者への助言についても、広い視野を持って対応している。 様々な子どもたちが利用しているため、それぞれが自分の特性や発達状況に合わせた過ごしができることを保障している。	子どもたちそれぞれが安心して通える場所にしていけるよう、さらなる共有の強化を行う。
3	年齢、障害種別に関係なく受け入れをしている スタッフ間の様々な情報・知識の共有	小学1年生～高校3年生まで、また、知的、発達、医療的ケアなど、分けることなく受け入れを行っている。 スタッフ間では、外部の情報やそれぞれの知識など、働く仲間の持つ経験などを共有して、質の向上に役立てている。	様々な子どもたちが来所するということは、それだけ多くの知識や技術の習得が必要となる。見立て、手立て、実践、それぞれの質の向上のための学習など、日々続けていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団活動の決めにくさ	様々な子どもたちが来所するので、一つの活動内容(例:ひこうき作りをします)などで療育を決めてしまうことの難しさがある。	その日における取り組みについて、提供する活動内容だけに注力するのではなく、様々な視点から見立てを行い、一人ひとりにとって学びとなるよう療育を行うこと。
2	個別対応の取りにくさ	個別対応を基本としていない事業のため、個別に対応が必要なときの人員的厳しさがある。しかし、子どもたちにはそれぞれ、様々な理由から個別対応が必要な場面はある。	支援現場でのスタッフ間のコミュニケーション、ご家族や関係機関との連携強化が重要。
3	砂利駐車場のため、怪我等のリスクが高いこと	事業所前の駐車場が砂利であること。また、その要因の解決には資金や他の様々な理由があること。	リスクを踏まえた対応をスタッフ間で周知し、怪我等のリスクへの意識を高めて対応する必要がある。